

Ⅱ 実 践

＜実践例 1＞ 第1学年 POWER-UP 9 ～1枚の絵にナレーションとセリフをつける～
平成29年12月 (今野 怜)

1. 目 標

- (1) 既習の言語材料を用いて、読み手にとってより伝わりやすい表現を模索しながら、絵に合うナレーションやセリフの作成を行っている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 既習の言語材料を用いて、絵に合うナレーションやセリフを英文で書いたり、口頭で発表したりすることができる。
(外国語表現の能力)
- (3) 既習の言語材料を用いたナレーションやセリフの内容を、正確に聞き取ったり読み取ったりすることができる。
(外国語理解の能力)
- (4) 既習の言語材料を正しい語順で使い、絵の情景に応じた場面で用いることができる。
(言語や文化についての知識・理解)

2. 指導にあたって

(1) 生徒観

生徒は、入学当初から多くの場面において口頭によるコミュニケーション活動や発表を行ってきた。また、小学校外国語活動でも音声を中心にコミュニケーション活動を行ってきたため、聞いたり話したりする課題については比較的抵抗を感じずに取り組むことができる。5月に行った題材「附中紹介をしよう」では、小学校外国語活動で慣れ親しんだ英語表現を場面や内容に合わせて組み合わせながら、口頭でのVTR作成に取り組んだ。この活動を通して、小学校外国語活動で親しんだ表現を用いて自分の伝えたいことを表現する力が付いてきた。さらに、前題材「My Project 2～人を紹介しよう～」では、自分の好きな有名人をALTにスピーチで紹介する学習活動を行った。構想をマッピングした後に、スピーチ原稿を書くという流れで活動を進めていった。第三者についての説明やcanなど使用できる表現が増えたことで、より幅広く自分の伝えたいことを表現できるようになったが、以下のような課題も見えてきた。

- ①口頭では使用できる英語で自分の伝えたいことを伝えようとするが、書くことにおいては、日本語を正確に変換した英語で表現しようとするあまりに、既習事項から選択して置き換える力が不足している。
- ②主体的に題材と関わり、意欲的にスピーチ原稿作成を行ったが、相手意識が不十分であり、より相手に伝わる言葉の選択や表現方法の工夫が必要である。

以上のような現状を踏まえて、特に、「書くこと」において、既習事項を用いて自分の伝えたいことを表現したり、場面や相手を意識した表現を選択したりする力を付けていく必要がある。

(2) 教材観

本題材は、釣り人と小熊が川で一緒に立っている写真と、赤ちゃんが新聞を読んでいる写真を見て、その後に予想される状況やセリフを考える内容となっている。今回はその発展的な課題として、1枚の絵について情景描写とセリフを読み書きする活動を加えたもの

を設定した。情景描写では、その場面をまずは正確に捉えること、セリフの作成では、絵から予想できる内容を含むことを意識した表現の選択が求められる。さらに、読み手にとってその内容が理解できて、的確に伝わるように工夫する必要がある。場面や内容にふさわしい表現を適切に選択したり、読み手や内容を意識して表現を工夫したりする力を、生徒にとって想像の幅が広がる絵を通して高めていきたい。

言語材料は、教科書(SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)の PROGRAM 9 までに学習したものを扱う。具体的には、絵の情景描写においては第三者について説明する表現や現在進行形の使用が、セリフの作成においては命令文や疑問文、慣用表現などの使用が予想される。それらの表現を、場面や内容に応じてより適切に、正確に用いることができるようにすることをねらっている。どの場面でもどの表現を選択すれば自分の伝えたいことが的確に伝わるのかを模索しながら、自身の英文を改良していくことが期待される。

(3) 指導観 ～目指す生徒の姿に近付けるために～

本題材での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

既習事項から、1枚の絵の場面や内容に応じたふさわしい表現を選択し、自分の伝えたいことが読み手に対してより正しく伝わるストーリーを模索しながら、英文を作成している。

英語科では、3年間を通して、「外国語を通じて、主体的に人や社会と関わりを持ち、場面や目的、相手に応じてより適切に伝え合う生徒」の育成を目指している。そのために本題材では、場面や相手を意識して、既習事項からより適切な表現を選択する力を育みたいと考えている。

①本題材で付けさせたい資質・能力

本題材では、「絵や写真からその状況やセリフを予想して英文を考える」ことを、題材を通じた学習課題として設定し、「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」「書くこと」イ)に重点を置いて進めていく。場面や相手を意識して、既習事項からより適切な表現を選択するためには、伝えたいことと既習事項を結び付け、正確に書くことが求められる。さらに、それが正しく伝わったかを、読み手を通して把握する必要がある。自身の書いた表現が読み手にどう伝わっているのかを判断して、よりよい表現を模索できる力を付けさせたい。そして、本題材を通じて得たものの見方は、特に全教科共通で重視して育む資質・能力「知識や技能、経験の生かし所を見いだす力」と「場に応じて判断基準をつくる力」を伸ばすことにつながると考える。

生徒たちは学年が上がるにつれ、使用できる言語材料が増え、コミュニケーションを図る相手の対象も広がっていく。その中で、場面や目的、相手に応じてより適切な表現を選択し、円滑にコミュニケーションを図ることができるようになることを期待している。

②留意点

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

- ・グループ内の仲間と自分の英文を比較させ、読み手に正しく伝わっているのかを確認したり、よりよい英文を模索させたりするきっかけとする。
- ・題材を通して、自分が使用できた表現と仲間から得た表現を書き留めさせる。このことが、より質の高い絵の情景描写やセリフの作成につながるものと考えられる。

3. 学習計画 (4時間計画)

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1. 絵の情景とセリフを考える。（1）	★1枚の絵から情景とセリフを読み取ったり、自分の考えを書いたりしている。（意・表・理）	★より幅広い表現で自分の考えを書くことができるように、他者の英文と比較させる。また、他者から学び得た英文を振り返りシートに書き留めさせる。
2. 絵の情景とセリフを予想して書く。（1）	★様々な絵から予想できる情景とセリフを、既習事項を用いて書いている。（意・表・言）	★他者の英文と比較して自分の英文を推敲することができるように、グループでのブレインストーミング形式で活動を行わせる。
3. 1枚の絵について情景を考える。（1） 本時	★1枚の絵の情景描写を、現在進行形などの既習事項を用いて自分の伝えたいことがよりの確に伝わる表現を模索しながら書いている。（表・言）	★他者の英文と比較して自分の英文を推敲することができるように、グループでのブレインストーミング形式で活動を行わせる。
4. 1枚の絵についてセリフを考える。（1）	★1枚の絵のセリフを、情景を踏まえてふさわしい表現で書いている。（表・言）	★セリフ独特の表現を使うことができるように、教科書の対話文の内容を参考にさせる。

4. 本時の目標

現在進行形などの既習事項を用いて、読み手に対して自分の伝えたいことが的確に伝わる

ように加筆修正しながら、1枚の絵について情景描写をすることができる。

5. 過程

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て
1. 前時までの学習内容を復習する。 【ペア】	・相手が発話した英文を、必要に応じて英語で問い返したりしながら正確に英文を書き写している。	・本時の課題に用いられる既習事項に焦点を当てさせるために、出題範囲に制限を与える。
課題 読み手によりの確に絵の内容を伝えよう。		
2. 1枚の絵を用いて、情景描写の表現を口頭で確認する。 【一斉】	・既習事項を用いて自分の伝えたいことを表現しようとしている。	・既習事項と自分の伝えたい表現を結び付けることができるように、必要に応じて振り返りシートを参考にさせる。
3. 1枚の絵から予想できる情景描写を作成する。 【グループ】	・仲間の作成した英文と比較して、加筆修正を加えながら英文を作成している。	★仲間の英文から自分の伝えたい表現を作成するためのヒントを得たり、よりよい表現を使った英文を作成したりすることができるように、小グループでブレインストーミングをさせる。その際、完全な文、不完全な文を問わず、メモ用紙に書かせ、仲間と共有させる。
<p><重点を置いた英語科の資質・能力を発揮している姿> ★仲間の作成した英文を参考にして、自分の伝えたい表現を加筆修正したり、不完全な英文について、考えを出し合い、より伝えたい表現に近づくように推敲をしたりしている。</p>		
4. 他グループの英文と比較する。 【自由交流】	・他グループの英文からその絵の内容を読み取ったり、参考にできる英文をメモしたりしている。	・活動後に自身の英文を推敲することができるように、振り返りシートを持参させその場で参考になる英文をメモさせる。
5. 振り返りをする。 【個】	・前時までの自身の英文と比較して、新たに気付いた表現や疑問に残っていることを書き留めている。	・題材を通して自身が表現できる英文の幅の広がりにつけさせるために、1枚の振り返りシートに記入させる。

6. 評価とその方法

現在進行形などの既習事項を用いて、読み手に対して自分の伝えたいことが的確に伝わる

ように加筆修正しながら、1枚の絵について情景描写をすることができているかどうかを、活動3・4の様子やワークシートの記入内容から評価する。

7. 生徒の振り返りから

- 書きたいことを自分の使える英語で表すのが難しかった。
- ブレインストーミングシートを使って、クラスの人が書いている英語を参考にすることができた。
- グループでブレインストーミングをしている時、アドバイスをもらって自分の言いたいことを何とか英文にすることができた。
- 他グループのブレインストーミングシートを見て、「なるほど」とか「こう書けばいいのか」と思う英文があって勉強になった。
- 前に学習した動詞や **can** を使って英文を書くことができた。

8. 授業を終えて —事後研究会から—

実践を通しての成果(○)と課題(▲)は以下の通りである。

- 生徒同士で解決させる過程(ブレインストーミング)の中で、教師を介さずに英文をブラッシュアップさせていたグループがあって面白かった。そこで終わらず、グループによる表現の違いを全体でシェアして話し合わせるなどの手立てを講じると、表現のニュアンスの違いなども考えるきっかけになってよいのではないか。
- グループ内での話し合いの様子が面白かった。また、生徒が書いた英文を瞬時に見ることができるようシートだったので、生徒が頭の中でどのような思考をして、どのような文法エラーが起きやすいのかを検証することができる。本時の授業でこのシートを完結させずに、生徒に自分の書いた英文を自覚させて、今後の改善の材料としてほしい。
- ▲ ブレインストーミングをさせて、仲間の書いた英文から自分の英文を省みて修正させることをねらったが、文法的なミスの多いグループがあった。他グループとの交流の趣旨に気付いて表現が磨き上げられるかと思ったが、なかなかうまくいかないところがあった。英文のミスは、書き慣れていないことから生じており、話し言葉と書き言葉のハードルをいかに越えさせるかが今後の課題である。
- ▲ グループによって書いている英文の量に差があった。文量の指示を与えることで、ブレインストーミングされたものがもっと精査されていったのではないか。生徒の書いた英文がそのまま生かされることも価値があるが、その英文がよりよい表現になるように、思考や過程を自覚させる工夫が必要であったと感じる。
- ▲ 今やっている活動が、今後何につながるのか見えてくることが大事である。生徒自身が活動の意図を理解しているかどうかで、グループ交流や、他グループとの比較の活動のポイントや視点がより明確になったはず。